

息を合わせて！  
心を合わせて！

〜我謝の綱ひき〜

今回、七月二十七日(日)  
におこなわれた我謝の綱ひき  
のようすをお伝えします。

我謝の綱ひきの由来は約五  
百年といわれています。その

長い伝統や規模の大きさ、

がしやまち

我謝巻と呼ばれる美しい巻き  
方で作られる綱は有名です。

我謝では、兄弟がリンゴー、

ウフカーに分かれて稲の品質

を競い、その藁わらで綱を作って

ひいたのが始まりだといわれ、

字の人々の健康や豊年などを

祈願します。旧暦六月二十五

日(ウファチ)におこなうこと

からウファチ綱ぢなと呼ばれてい

ます。

午後六時頃、四方からブラ

(法螺貝ほらがい) やソグしよっこ(鉦鼓)

が鳴り響くなか、旗頭はたがしらを先頭

に、綱ひき場となる我謝児童

公園前へ綱を運んでいきます。

公園前はずでに大勢の人だか

り。綱の上にはシタク(歴史

上の人物ぶんとに扮した少年)が乗

り、女性たちがチヂン(小太

鼓)を打ち鳴らして、これを

迎えます。

勝負前、士気を高めるため

にガーイーをします。高々と

持ち上げた旗頭を上下させた

り、棒を持った男性たちが円

になって走りまわります。旗

頭に記された「和衷」「養気」  
(リンゴー)、「平和」「協力」  
(ウフカー)の旗字は、皆で  
心を合わせようという意味が  
こめられています。



いよいよリンゴーの雄綱、

ウフカーの雌綱が中心へ寄せ

られ、雌綱の下から雄綱が通

されます。カニチ棒が入ると

ひき始めの合図です。



カニチ棒が入った瞬間、右

へ左へとひかれる綱。人々の

熱気は最高潮となり、腰をお

とし、声を合わせてひき続け

ます。勝負は一度おこなわれ、

一度目はリンゴー側、二度目  
はウフカー側が勝利しました。

勝利の喜びは、紙吹雪とと

もに舞う旗頭と巻き棒、チヂ

ンを打ち鳴らしながら歌う、

女性たちのハーモニーで

あらわれます。今年は、伝

統的な節に新たな歌詞をのせ

て歌われました。その一部を

ご紹介します。



がしや 我謝 綱曳やヨー

しまんちや 島人ぬ 宝ヨー

\* (サーツサ ハイマカチャン)

ゆゆ 世々 満代までいんヨー

さか 栄てい たばりヨー \*

綱ひきを誇りに思う気持ち  
が伝わる内容です。

この日は、町内他の地域で

も綱ひきがおこなわれました。

熱気に包まれた場、くいしば

った表情の後に、勝っても負

けてもこぼれる笑み。綱ひき

は暑い夏に熱くなる魅力的な

風物詩ですね。(田島)

